資料 15

「明石市職員からの聴き取り書」

1　第２回委員会

「市側の事前準備に関する質疑」

日　　時　　平成 13(2001)年 8 月 14 日（火）　13:10～17:30
場　　所　　８０４会議室

Q　事前協議をしたときは、打ち合わせ記録などは作らないのか。
A　次第の中であるとか、担当のメモとしては記録するが、正式なものとしての記録はない。
Q　夏まつりの実行委員会とあるが、そこが主催者なのか。
実際に夏まつりの事務を取り仕切るのは、市役所の市民経済部であるのか。
A　市民経済部の商工観光課である。
Q　市民経済部の中にも他に課があって、夏まつりの事務を担当しているのが、商工観光課ということか。
A　そういうことだ。
それと主催の 12 団体の中で、明石観光協会があるが、これは商工観光課の職員が兼務をしているという任意の団体である。それと二人三脚というか、二枚看板で仕事をしているのが実情だ。我々が市の職員でもあり、観光協会の事務局でもあるということだ。
Q　大蔵海岸で 12 万人規模のまつりを行うというのは、どこで決めたのか。
A　実行委員会で決めた。
Q　その時の提案は誰が行ったか。
A　事務局で行った。ただ、大蔵海岸や明石公園にしようと考えたのは、去年のまつりの反省会で実行委員会であるとか、市民の声を聞いて案を提案した。
Q　会場を変更した経緯というのが、どのようにして行われたかを知りたい。
A　以前は、市役所の前や観光道路で行っていたのだが、この周辺は家が建ち並び場所が狭い。露天商のマナーも悪く、住民とのトラブルも発生した。
花火は中崎小学校の南から行っていたが、保安距離というのがあって、家が建っていないときは、少々の風があっても行うことができたのだが、最近では、少々の風でも中止せざるを得ないという状況になってきた。昨年も、一昨年も２日のうち、１日の花火が中止になった。花火を中止することに関する苦情が多かったことが２点目。

	加えて、内容が２日とも同じ内容で、過去からも同じ内容で行ってきたが、新しい世紀に向けて内容を検討したらどうかという話があった。 昨年のまつりの反省会でそういう話が出て、調整の結果４月に場所が決まったという経緯である。
Q	会場を決定していく過程において、花火の安全性であるとか、群衆のさばきかたであるとかを検討してベストとして判断するのではないか。
A	花火の上げられる会場としては、中崎小学校以外には、大蔵海岸ぐらいしか考えられない。大蔵海岸では、今までより大きな花火が上げられるし、保安距離も多くとれる。 また、３年前やカウントダウンでの花火の実績があったので、ほとんどの人が花火と言えば大蔵海岸というように考えていた。 人の集客という面でも、色々問題はあると思うが、実際にそこで２度、３度行っているので、想像をしていなかった。
Q	市役所近辺で行っていた時の、来場者数はどのくらいであったか。
A	おおよそ１日に 15 万人である。
Q	今年市役所周辺で行うということは、決定的にだめだったのか。保安距離は法令で決まっているのか。
A	小さい玉でも風の影響で中止せざるを得ない状況が続いた。 10 年度は大蔵海岸で海峡まつりを行い、今回の場所と同一の所で行ったが、その時は歩道橋はなかった。
Q	10 年度だけ大蔵海岸で行ったのか。
A	明石海峡大橋が開通する年であったので、まつりを行った。
Q	今年は花火が１日だったが、なぜ１日にしたのか。
A	まつりのメリハリをつけようと考えた。
Q	ニシカンとは以前から面識があったのか。
A	ニシカンというよりは、そこのＮ氏と面識があった。というのは、海峡まつりの時にＮ氏が率いる警備会社が警備を担当したが、その時の仕事ぶりが大変すばらしいと私は思った。 私もその仕事に従事していて、その指揮統率ぶり等に感心をした。暴走族が暴れたときも、身を挺して防いでくれた。カウントダウンの時も総指揮者として活躍されていたこともある。 それと同時に、警察の担当者がよく知っていて、その人からああいう警備会社がいいなということを言われていた。場所を変えて行うのであれば、ちゃんとした仕事ができるところ、警備計画書が作れるところにしたらどうかという、推薦に近い話があった。
Q	知らない人だけども、人から勧められてしたということではなかったのだな。
A	過去の実績と推薦とを考慮して決定した。下請けの警備会社については、市内の業者を中心に選んだ。

Q	指名業者でもなく登録業者でもないニシカンに頼んだということは、余程信頼していたのか。
A	県の花博でも実績があった。大蔵海岸での実績も２回あったので、信頼をしていた。
Q	露店の配置で歩道橋下の海岸よりの部分を開けたということだか、開けないとどういうことになったのか。
A	当初は民活用地が使用できない状況であったので、警察と神農が現地立会いをして、どこに露店を出せるか協議した。 その時に、警察から歩道橋下の部分を 13.5 メートル開けなさいという指導があり、神農もそれに従った。我々はそれでよいのだろうと思っていたが、その後の協議でもっと多い部分を西へ振ればよいのではないかという案が出て、協議を進めていった。
Q	警察の指導は、どういう理由で開けなさいと言ったのか。
A	階段の下で、人が溜まりやすいということだと思う。
Q	溜まるとどういう危険があったのか。どういう危険性を予測していたのか。
A	どういう理由で 13.5 メートルにしたのかの理由は聞いていない。我々が検討していく中で、13.5 メートルが広いか狭いか分からないが、より広い方が安全であるし、西へ賑わいを持っていった方が、人の流れもスムーズになるのではと考えた。
Q	最初に市の方は、現在の場所に露店を出そうと考えた理由は。最初から西へ持っていくという案はなかったのか。
A	海水浴場の利用客が、夕方くらいに常設の駐車場から出庫することや、警察の指導で数を少なく、一か所にまとめるようにということを言われた。
Q	やむを得ずということか。民活地のあたりにしようという案はなかったのか。
A	４月、５月の時点では、民活地は他の業者が開発する予定になっていて、使えないという状況であった。消去法で現在の場所になった。 もう一つは、駐車場の中に出すという案も検討したが、海水浴の関係と、条例とのからみで営業行為ができないということになった。
Q	夜店の協議をたくさん行っているが、警察の関係者は道路以外の市有地を使うことができないのかという発言をしている。 その次の当たりから、明石市が西の方でやりたいということに、警察が反対して、近いところでやりなさいということで、何回もやり取りをしている。警察の言うことが変わってきている。
A	警察も交通の係と雑踏の係の者との意見が違っていたというのが実情である。同時に聞いたときも、意見が違うことがあり、誰の話を聞けばよいのかという状況もあった。
Q	結果論からいうと、警察は雑踏警備よりも暴走族対策を重要視していて、頭は全部暴走族対策にいっていたのではないか。

	夜店を遅くまでやってもらったら困る。市道占用許可なら、警察の権限で止めさせることができるということで、雑踏警備を二の次にして、暴走族対策を優先した考え方をして夜店の位置を決めさせたということだろう。 早く夜店を終わらすために、警察の権限の及ぶ所に夜店を出しなさいということが経緯であるように思う。
A	我々もそう思う。話の比重としては、暴走族対策にウエイトが置かれていた感じである。
Q	警察との協議を見ても、夜店の話が中心になっており、花火で人が集まるということが協議されていないように思う。 警察との検討会の中でも、人の流れはどうなっていくのか、何人ぐらい集まってくるのか、導線計画はどうするのかといった協議がなされていない。当日人が集まってくる時の警備の仕方が何も協議されていないように思える。担当課として、そのことをどう考えていたのか。
A	我々も任せきりにしていたと言われれば、それまでだが、カウントダウンの経験がある警察と信頼する警備会社の２者のことであるので、協議の中でやっていただけるであろうと思っていた。
Q	その中で、うまくいったかもしれないが、人が溢れたという情報があったのに認知がされていなかったということか。認知はしていたが、警察と警備会社がなんとかしてくれるであろうと思っていたのか。
A	私は、県の発表した５万５千人が少ないと思っていた。その時に警察担当者もいたが、少ないということを言っていた。私の感覚としては、10 万人といってもいいくらいである。 そういう中で、階段付近が混雑したというのは聞いていた。その状態でＮ氏と警察とが連携で処理したので、今回もその経験を生かして、処理されるであろうと考えていた。
Q	あまり重要視しなかったということか。警察と警備会社が何とかやってくれるであろうということか。
A	方法とか、人の集まりとか全てをひっくるめて、経験を生かして行ってもらおうと思っていた。２回目の経験なので、１回目よりは改善されるであろうという考えであった。
Q	警察と警備会社は、当日の警備の打ち合わせを行っていたのか。
A	警察協議の時に２回顔は会わせている。
Q	話し合いというか、問題点を抽出して協議をしたことがないということか。
A	はい。
Q	当日の人出予想を前提にして、どのような警備体制を敷けばよいのかといった話し合いはなかったのか。
A	わからない。
Q	警察と警備会社との連絡方法を定めることになっていたが、これを受けて警察と警備会社との２者で協議を行っていないのか。

A	確認していない。
Q	５月 21 日の会議で、山陽電鉄大蔵谷駅、ＪＲ朝霧駅の歩行者対策を万全にすることという意見が出ているが、これを受けての協議というのはなかったのか。具体的にこうしようじゃないかという、指導はなかったのか。
A	大蔵谷駅についての話しはよくあった。
Q	６月 26 日にも朝霧歩道橋に若者がたむろしないようにという警察の指摘があるが、これについてはどうか。
A	６月６日に第２回の検討会が行われたが、警備区毎の人数の割振などを協議した。
Q	私の質問しているような内容の協議はあったのか。
A	なかったと思う。
Q	歩道橋は道路交通法上の歩道でしょ。歩道ということになると、警察はどう考えていたか。
A	警察の方は、イベント警備については自主警備が原則であると言っている。警察は暴走族対策だけであると、常々指導されている。 事故後、歩道は警察の権限であるということが報じられたので、警察の内規でもそうすることというものがあるようだ。 「雑踏警備実施要領」についてという規定があるようだ。警察の内部でもしなければならないことを定めている。
Q	雑踏警備ということはそうであるが、歩道橋の警備については、警察の考え方を示されたことはないのか。
A	特になかった。
Q	歩道橋についての警備体制をどうやって敷くのか、第一義的には誰が責任を負うことになるのか、警察からの話しはあったのか。
A	特になかった。
Q	歩道橋にロープを張って、交互通行にしようという話しもあったようだが。
A	そういう話しはなかった。ロープを張ることが逆にひっかかって危ないのではないかという話があったようだ。
Q	貴方たちは、当日 10 万を超える人が会場に来るということで、どこがメインの通路だと考えていたか。
A	歩道橋については、４～５万人が通行する。大蔵朝霧線についても相当数が利用するであろうと考えていた。 国道 28 号をまたぐアンダーパスがあったので、ある程度はそちらを通ると考えていたし、帰りもそちらに誘導すれば、歩道橋も空いてくるという考えも持っていた。
Q	当日は車で来ないようにというＰＲをしていたのではないのか。
A	そうだ。
Q	ＪＲ朝霧駅で多数の人が降りてくるとは、予想しなかったのか。
A	ある程度の人は朝霧駅で降りるとは予想していた。

Q	運営体制マニュアルはどこが作成したのか。
A	市が作成した。
Q	運営本部と自主警備本部はどのような関係か。
A	自主警備本部というのが、警備会社が居るところだ。それと係として、市の職員２名が配置されている。警察も数名テントの中に居た。
Q	実施運営本部と自主警備本部との指揮命令系統は、どうなっているのか。
A	連絡を取り合いながら、警備の指示を出したりする。
Q	実施運営本部は何をするのか。
A	イベントの運営を進めていく。
Q	当日の警備は、自主警備本部が窓口になって行っていくということか。
A	はい。
Q	警備区の図に、打ち上げ花火対策班というのがあるが、第２、第４、第６警備区と書いてあるが、第３警備区が記載されていないが、それは何故か。
A	市の職員は入っていない。歩道橋と違う部分を担当していた。
Q	警備会社に任せていたということか。
A	警備会社の方が、レベルが上であるという認識からだ。市の職員でも対応できるような所には、職員を配置している。 第３警備区については、専門の警備会社に任せようという考えであった。
Q	花火会場と国道、夜店にばかり意識がいっていて、問題の歩道橋に関しては、意識が欠落していたのではないか。
A	結果論になるが、専門家に任せていれば安心であるという意識であった。 経験と実績のある警備会社と明石警察であったので、なおさらそう思った。 協議の中でも、警察から警備会社と連携のとれる体制にしたいという指示があって、そうすると答えていたので、２重３重で安心をしていた。
Q	市役所の職員の中に、警備関係の専門家はいるのか。
A	いない。イベント経験はある。
Q	雑踏警備のことをよく分かっている職員はいるのか。
A	いない。見よう見まねの手伝いくらいができる程度である。
Q	商工観光課の職員は、当日どこにいたか。
A	歩道橋から 30 メートルほど離れた所に、テントが７張りあって、その中にいた。
Q	警察もそこにいたのか。
A	警察の警備本部もその中にあった。
Q	橋のたもととは、どのくらいの距離があったのか。
A	50 メートルくらいはあったと思う。
Q	そこから橋の様子は、全部見渡せるのか、一部しか見えないのか。
A	場所によるが、実施運営本部からでは一部しか見えない。
A	花火の危険もあるので、海岸側を向いていた。歩道橋の状況については、警備会社の無線でニシカンに入ってくると思っていた。

Q	警察の場所からは、全部見えるのか。
A	我々と変わらないと思う。全部は見えないと思う。
Q	テントは素通しではなくて、山側の方は覆いでもあったのか。
A	あった。
Q	カウントダウンの時は、聞くところによると階段も下りの一方通行にして、今回よりも大変厳しく行っていたということだが、事実なのかどうか。
A	カウントダウンの時は、主催が県であるので、警備体制がどうであったかは分からない。 実際にどういうふうに行われたかは聞いていない。カウントダウンの時の要領で行うということを警備会社は言っていた。
Q	言っているけれども、実際にはやらなかったのか。
A	それについては、色々言われているが、警備員だけでできるのか、警察の協力がいるのか、難しいところである。
Q	ニシカンとの契約書はどのようにしたか。
A	事故後になるが、締結は行った。
Q	事後ということか。
A	事前に要求はしていたが、送ってこなかった。
Q	事前にいちいち契約書をとらないケースは多いのか。
A	色々なケースがあって、臨機応変に対応するときはそういう場合がある。 観光協会に委託しているのも、市の契約であると入札をしなければならないとか臨機応変にできないという理由もある。
Q	契約書のこちら側の名義人は、誰になっているか。
A	明石観光協会である。
Q	観光協会ということになると、本当の主催者はどこになるのか。
A	実質的には市が行っているようなものだ。
Q	契約書の日が 7 月 16 日になっているが、これは違うのだね。
A	本当に締結したのは事後であるが、16 日というのは、ニシカンが記入した日である。
Q	夏まつり実行委員会と観光協会との位置づけは。
A	観光協会は、実行委員会の一員である。実質的な実務は、観光協会が行っていた。
Q	当日の導線についての周知徹底は行ったのか。
A	事前のまつりの案内パンフレットは作成しているが、当日のビラなどは作成しておらず、導線についての案内はしていない。

２　第４回委員会

「市側の事故当日に関する質疑」

日　　時　　平成 13(2001)年 9 月 17 日（月）　9:30～12:30
場　　所　　８０４会議室

Q　事前の警察との協議で、夜店の話が多く出ているが、話題は夜店の事だけであったのか。

A　夜店の事が多かったのは事実である。警備計画とか、その他の話しもしている。
回数的には、夜店の回数が多かったが、警備計画であるとか、警備会社との調整の話しもたくさんあった。

Q　今まで出してもらった資料を見ると、夜店のことばかりのような気がするのだが。

A　夜店のことというのは、暴走族対策と絡んでいて、早く夜店を閉めないと暴走族が来るということで、夜店を出すか出さないかからスタートして、どの場所にするかということなどを協議した。

Q　夜店の他のことで、警察との協議は行われなかったのか。警察との検討会以外の所での協議はどうであったか。４月初めの時点とかではどうであったか。

A　その時点では話しに出ていない。というのは、警備の話というのは、イベントが決まっていくのに合わせてしていくものであるので、まず夜店ということに神経を使っていた。警察の方もそうであった。

Q　警察との検討会では、夜店以外のことも話されているが、その外で何回も警察と会っているのに、その時は夜店のことしか出ていないのか。

A　そのころは、夜店の話が中心であった。

Q　５月 21 日の第１回検討会だが、そこで、警察から何点か指摘があったが、「山陽電鉄大蔵谷駅で車道まで人が溢れた。」とか、「ＪＲ朝霧駅の歩行者対策を万全にすること。」という指摘があったようだが、これは指摘があっただけか。
その点について、警察から細かい指示があったのか。或いは市側から、どうしたらよいかなどの応答はあったのか。

A　そこまでの分はない。ただ、大蔵谷駅の件は、実際にカウントダウンの時にあったことで、Ｎ氏が警察に応援を依頼した件である。そういうことがあったので、まずそういうことが出てきたのだと思う。
ＪＲ朝霧駅の件は、具体的にどこがということではなく、若者がたむろするようなことがあるという意味だと思う。

Q　こういう点に注意しろよという指摘があったに止まるということか。

A	そうだ。
Q	掘り下げた議論というのは無かったのか。
A	無かった。というのは、この時はまだ警備計画の案を提出していないからである。
Q	６月１日に、Ｎ氏を呼んで話をしているが、その時の実施計画を渡したのも先程の聞いたものと同じ内容のものか。
A	そうだ。
Q	「カウントダウンイベントを参考に警備計画書の作成を依頼した。」となっているが、何を参考にしたのか。
A	これは、カウントダウンの時は、明石市は西側の駐車場の運営を行っていた。その時のために、カウントダウンの警備計画書の一部を手に入れていた。それを参考にしながら、担当者の案をＮ氏に渡した。 しかし、これは素人の案であるので、Ｎ氏の専門の知識を加味した案を、６月６日に来る時に、作ってきて欲しいということでお願いした。
Q	カウントダウンの時には、歩道橋の所で混乱が起こったが、そういうこともよく考えてという思いは入っていないのか。
A	それはＮ氏の方が詳しいと我々は思っていたし、当然カウントダウンのことも全て踏まえて警備計画をお願いしている。
Q	カウントダウンは、兵庫県の主催と思っていたが、国も兵庫県も神戸市も明石市も北淡町なども、主催者として入っていたのか。
A	そういう実行委員会である。実質に仕切っていたのは、兵庫県の職員で事務局を持って運営していた。
Q	明石市は、主催者の一つとして、そこに関与していたのか。
A	構成員の一つとして、明石市長が副会長になっていたし、会場が明石市であるので、我々も何らかの協力が必要であると考えていた。周辺地域の地元説明なんかをいっしょに付いていったり、２名ほど本部の運営に来てほしいということで、派遣している。 イベントの中に明石市の団体も参加していたので、そことの顔つなぎ役とかを行っていた。
Q	あなたはどこに居たのか。
A	立入禁止区域内の知事などの控室の近辺に居た。
Q	カウントダウンの時の歩道橋の混乱は、見ていないのか。
A	見ていない。ステージが南側の砂浜にあって、我々も出演者といっしょに花火の方を見ていた。花火は 12 時ちょうどくらいから、12 分ほどであった。一番人が混むのは、花火の打ち上げ時だと思うが、その辺りの歩道橋の状況は見ていない。
Q	誰か他に現場を見ている人はいるか。
A	私は、12 時 30 分頃は、歩道橋を見たことがあるが、その頃には比較的空いていた。短時間に人がはけたなと感じた。明石の方に誘導したと聞いたの

で、うまくはけたなと思った。
歩道橋の部分でどうであったかというのは、人に聞くしかないし、歩道橋というよりも階段の部分で、のけ反るとかいったことがあったというのは後で聞いた。

Q　明石警察は警備についていたのか。

A　いた。

Q　それは明石警察の署員が警備に当たっているのを、目で見ているのか。

A　会った。

Q　歩道橋の階段付近でトラブルがあったことを、後から聞いていないか。

A　つんのめりそうになったという話は聞いた。

Q　Ｎ氏は殴られたと言っていたが、それは聞いていないか。

A　聞いていない。

Q　カウントダウンが終わってから、歩道橋の上に物が散乱していたらしいが、それは聞いているか。

A　聞いていない。

Q　転倒者がでたことは聞いているか。

A　聞いていない。たまたま３名は、同じようにしてたのだが聞いていない。

Q　観光協会が契約を行うという意義はどこにあるのか。

A　イベントというのは、役所のシステムに馴染みにくい。入札とかの制約があり、時間的に間に合わないといったことも起こる。イベントというのは何があってどう変化していくのかが分かりにくいということもあるので、フレキシブルに対応できるのが望ましい。
ほとんどのイベントは、実行委員会などを作って、その中で契約しているものが多い。我々も過去からその方法で行ってきた。

Q　６月６日の第２回検討会であるが、ニシカンから担当者作成の警備計画の案が出てきたということだが、この警備計画書の案について、中身を詳細に検討したのか。

A　この時は、市が作成した配置図をそのまま提出し、ニシカンからは警備計画書の案が出てきていなかった。

Q　６月１日に市から渡した配置案をそのまま提出したということか。

A　そうだ。

Q　この日の警察からの指導内容として、「何かあれば直接指示したいので、Ｎ氏と警察担当者との連絡体制を確立すること。」と指摘があるが、この何かあればという言葉の意味はどういうことか。

A　連絡するような異常というか、通常ではない事があればすぐに連絡をとりたいということだと思う。
この時に言われていたのが、明石公園に暴走族が侵入してきた時に、Ｎ氏から警察に直接連絡してほしいという趣旨の発言であった。

Q　それと、山陽電鉄大蔵谷駅のことだが、「歩道から人が溢れ、車道にまで及

	んだ。」となっており、N氏は「申し訳なかった。」と返答しているが、それだけで済んだのか。
A	第５警備区が大蔵谷駅付近の警備になるが、警察からの指摘で第３警備区の国道２号配備の警備員を第５警備区に移して、重点的に大蔵谷駅周辺の警備を行うようにという内容であった。
Q	警備員の配置の指図があったということか。
A	そうだ。
Q	その次に、「朝霧駅周辺、歩道橋の歩行者対策をすること。」の指摘に、N氏は「カウントダウン時のようにやる。」と返答しているが、この時もこの応答だけで済んだのか。
A	それで済んでいると思う。
Q	例えば、群集をどのように誘導するかとか、或いは具体的な誘導方法とかの協議は全然ないのか。
A	歩道橋上については、その応答だけで終わっている。
Q	カウントダウンの時に「電車の乗り降りの状況も落ち着いていた。混雑とか満員ではなかった。」と記載されているが、これは朝霧駅のことか。
A	これは、12 時 30 分ぐらいの朝霧駅の様子である。
Q	毎年の夏まつりの事前打合せというのは、こういうスケジュールで行われるのか。
A	もっと時期は遅かった。５月頃から始まるというのが、今までの実態であった。
Q	今年は、新しい場所だから早めにしたということか。
A	そうだ。例年であると、警察協議は２回だが、今年は場所も変わるということで３回行った。
Q	「テント後ろから歩道橋上を見た（６時より混むが流れはあった)」と記載されているが、流れはあったということは、人が動いている状態であったのか。
A	少しは動いているという状態であった。相当混んでいたが、見上げる仰角というのがあるので、その辺の形しか見えなかった。
Q	その時に、歩道橋から降りてきた付近が、どうなっているかというのは考えたか。降りてきた所が、人で一杯になって、降りたくても降りられない状況になっていたと思うのだが。
A	正直にそこまで考えは及ばなかった。階段の部分は、テントの後ろからは見えない状況であった。人数的にはどのくらい来ていたのかという意識はあったが、それは危険を察知するために見ていたのではなくて、人がどのくらい来てくれているのかという意識で見ていた。
Q	カウントダウンの時に、12 時前後に歩道橋上が危険な状況であったということは、伝わっていたのか。実際にはそうだったのだが、それまでの警察との協議や、N氏との協議の中でうまくいったということで、報告が行わ

れていたのか。

A　カウントダウンと同様に、遊撃隊で対処するといった答えが多かった。その時は、たまたまうまくいっていたので、それでよいと思っていた。

Q　カウントダウンの遊撃隊の役割は、どういうものであったか。遊撃隊は明石市で作られたものか。

A　警備員の遊撃隊である。Ｎ氏の警備員の遊撃隊で対処したということである。

Q　具体的にどう対処したかは、確認したのか。

A　聞いていない。

Q　今度も遊撃隊でうまくやるであろうということか。

A　そうだ。

Q　あまりディスカッションをしていないということか。

A　つっこんだところまではしていない。

Q　なんとなくは注意が必要であるという意識はあったが、警備会社が対応すると言ったので、それに任せてしまったという理解でよいか。

A　はい。我々もそうであったし、警察側からのつっこんだ質問もなかった。

Q　事故が起こるということを前提にした議論はしていなかったということか。

A　事故が起こっても、一人二人が転んだとかの事故は考えていたが、これほど大きな事故が起こるとは、予想していなかったし、場所にしても、歩道橋上というのは考えていなかった。階段とか、その下の辺りについては、予測はあったが。

Q　「ＪＲより市役所を通して、お客を朝霧駅より明石、舞子に回してほしいとの連絡を受け、すでに指示をしているのでそのままに」と記載されているが、これは、誰に指示をされたのか。

A　朝霧駅から市役所の本部に、こういう内容の電話があったということである。

それで、我々の方へ市役所の担当の職員から連絡があったのだが、私がそれ以前に、カウントダウンの時は、西へ誘導し、朝霧駅が空いたということを聞いていたので、花火が始まるまでに、市の職員に人は西へ誘導するようにということを連絡していた。特に、帰りについても、花火が終わると人が混むので、市の職員に西へ誘導するようにと、花火が始まるまでに指示をしていた。

それがあったので、もう既に指示をしているという返答をした。

Q　職員は、ただ単に声を出して現場で言うだけか。

A　ハンドマイクを持っている。それで、大蔵谷駅や明石駅方面に誘導していた。

場内放送でも同様のことを言っている。西の方からも花火がよく見えるということを放送し、観客を西へ誘導しようと考えていた。

Q	歩道橋を降りた所から西へ行くには、夜店の通路を通らなければならないが。
A	市の職員の遊軍が居るので、彼らについては、7時30分頃に階段下に行って、誘導するようにという指示を予め出していた。これは私も気がついていたし、係長も同様に考えていた。
Q	ある程度は、西へ流れたのか。
A	流れたと思う。
Q	道路としては夜店の道路しかなく、砂浜の方も花火見物の人が詰まっているということで、西へは単純には移動しなかったのではないか。
A	夜店は歩道の上であったので、車道については、そのまま通行路として利用できると判断していた。
Q	警察から9時に夜店の電気を消せと言われているらしいが、夜店については、場所とか消灯時間とかは誰が指示をするのか。夜店の電気をいつ消すかということは、いつ協議したのか。
A	６月４日に、明石警察署において、警察、市、神農との協議により、警察から指導があったものである。
Q	暴走族対策で9時に消せということか。
A	はい。
Q	市が提案した夜店の位置が、実際には歩道橋に近い位置になっているが、これは警察の指導でそうなったと解釈してよいか。
A	最終的にはそうである。
Q	警察はなぜそういう指導をしたのか。
A	夜店の配置を考える過程において、当初は民活用地を使えないということで、歩道橋下の位置になったのだが、その後企業進出の話がつぶれて、それでは民活地も使えるのではないかということを内部で協議して、最終的には市としては民活地を利用して、階段から西の南側の部分を空けようという案を提案した。 その中で、警察も担当課によって意見が違っていたが、地域官が市有地と道路とに分かれると、終了時間の統制がとれないということを言われた。 市有地については、夜店を閉めることができないであろう、暴走族が集まる原因にもなるということで、警察から指導があった。
Q	それは、管理がしやすいからという見地からか。
A	はい。
Q	警察は、民地で夜店があっても、警察の指導で止めさせることはできないのか。
A	私たちにはよく分からないが、その時に警察が言っていたのは、市有地を使うと警察の権限が及ばないということをだった。
Q	市の土地であれば、所有者との話で、10時以降はさせないということであれば止めさせることはできるのではないか。

A	市の方が責任を持って止めさせるということで、２～３回お願いに行ったが、「無理であろう、警察の指導に従わないのか」というふうに強硬に言われ、最終的にはそれに従った。
Q	カウントダウンと今回との人の集まり具合は、どのように違っていたか。
A	カウントダウンの時は、歩道橋下からバーベキューの所までは、立入禁止であったので、主に西側の民活地、海岸の階段部分、砂浜部分であった。 カウントダウンの模擬店は、西の民活地に 20 店ほど出店していた。
Q	今回は、夜店の所から人がいて、西側まで続いていたのか。
A	西側の民活地については、今回は人が少なかったように思う。
Q	おおざっぱに言うと、カウントダウンの時は西側の民活地に人がたくさん居て、今回は歩道橋の近く辺りに人がたくさん居たということでよいか。
A	夜店があるということは、人が集まる要素になっている。
Q	花火が上がっている時は、明るいので夜店に行かないが、花火が終わると夜店に行く。夜店の混雑度が、花火が終わった瞬間に上がったのではないか。西へ誘導しようとしても、詰まってしまって動けない状況になっているのではないか。 歩道橋で事故が起こっているような時間帯にでも、西へ誘導したことに対して観客が市の職員に、なぜ明石まで行かせるのかというような文句を言っているが、歩道橋の状況は全然分かっていなかったのではないか。
A	機動隊が歩道橋への進入を規制したのは、もう少し時間が後であった。上で何が起こっていたか、誰も分からない状況であった。
Q	例えば、夜店の電気を消せとかいうのは、警察にしては、暴走族のことしか考えていないということだ。消せば、真っ暗になるから歩いている人は危険である。そういうことを念頭に置いて消すなというのではなくて、暴走族のことしか考えていない。 警察は、群集が歩道橋でどういうふうになっていたかを考えていなかったということだ。 電気を消して、一斉に帰りだしたら、余計に危険である。
A	昨年も同じような指導があって、電気を消した。何度も消すようにという指導を受けている。今回は、９時の段階では店を閉めて、帰れるようにしておけという指導があったぐらいである。
Q	全く群集のことを考えていないね。
A	我々は夜店の出店をどうするかについても考えたのだが、市民の要望が夜店を望む声が多かったので、できれば夜店を行いたいと考えていた。
Q	警備関連の資材は、どういうものが用意されていたのか。
A	メガホン、無線機、点滅ライトなどを用意していた。
Q	どこに保管していたのか。
A	階段の下の倉庫である。
Q	踊り場の所で、三脚を構えてたむろしていたという話も聞いたことがある

が、それについてはどうか。

A　聞いたことはない。

Q　運営体制マニュアルの中に、市の職員の分担が記載されているが、第３警備区がないのは何故か。

A　専門家に任せようということで入っていない。

そこについては、警備会社と警察で対処してもらおうと思っていた。緊急事態が起こったときは、私の下の遊撃隊を動かそうと考えていた。

重要な所は、警備員に任せようという考えであった。技術的には、警備員と同じというわけにはいかないので、そのような形の配置となった。

Q　重要な所であるという認識はあったのか。

A　規制とかという話が出てくるので、そうした場合はどのようにすればよいか分からないので、そう考えた。

Q　市の方としては、プロに任せておけば間違いがないであろうということか。

A　そういうことが、根底にはある。おまけに実績のある警備会社であり、警察との調整も上手く行っていた所なので、安心をしていた。

Q　警察からも推薦ということだが、警察の方が主体となって推薦したのか。

A　我々も実績を認めており、選定したが、その決める条件の中にそれに加えて、明石警察の方からもああいう所がいいのではないかという話があった。

市内の警備会社との質が違うので、イベント警備の経験の有るところがよいと考えた。今までは市内の業者しか使っていなかったが、そうではなしに、ああいう所を使ってビシッとした雑踏警備ができるところを、この際新しくなるのであるから使いなさいという話が４月の段階であったので、Ｎ氏に決定した。

Q　警察無線で、混雑状況について入ってきたということは分かるか。

A　分からない。

Q　事故が起こってから階段の所に機動隊が来たが、その機動隊はどこから来たのか。

A　西のほうから来たと思う。バスの駐車場の所に機動隊のバスがあった。

Q　そこらへんがポイントであると思う。Ｎ氏は知っていたと言っていた。

それと、これだけのイベントを行う時に、事故が起こったときの対応策は、どういう計画であったのか。

A　これだけの事故は考えていなかったので、現場には看護婦と救急箱程度しか置いていなかった。

救急車については、市役所、朝霧分署が近いので、そこから来てもらうということしか考えていなかった。

救急病院は近隣の病院を考えていたが、これだけ大量にということは予想していなかった。

Q　相当数の負傷者が出るという想定をしていなかったと解釈してよいか。

医療機関でも、近隣の病院にしか依頼をしていないが、毎年の花火大会で

も近くの病院にしか依頼しないのか。医師会を通じてとかの依頼をしないのか。

A　例年も近隣病院にのみ依頼している。医師会を通じて行ったことはない。

Q　今回の場合は、もっと他の病院とかが近いのだが、その辺であまり多数の負傷者が出るという想定はなかったと考えてよいのか。

A　はい。

Q　消防との協議で、多数負傷者が出た場合にどうするかという協議はしたのか。救急車の進入路とかの協議はしたか。

A　28 号からの進入路については、協議していた。大型バスの駐車場の所で、バリカーをどければ入れるようにしていた。

Q　現実的には救急車はそういう動きになったのか。

A　最初の頃は入ってこれなかったが、後はその進入路で歩道橋の方へ入ってきた。